

あたり前の幸せとじいちゃん

香芝市立香芝北中学校 二年 辻 菜月

私のじいちゃんの可愛いお話。

じいちゃんは本当に素直じゃない。会いにいけば「また来たんか。」とか、ばあちゃんと話が盛り上がって、帰る予定の時間が少し過ぎた時には「はよ帰れ。いつまでおんねん。」なんて言ってくる。私はこんな言葉に何度泣いて、何度怒ったことだろう。

いつだったか。ばあちゃんが足を大けがして、入院、退院の繰り返しで手術をしなければいけないということになった。幼かった私にとって、それはもう心配で心配で仕方無かった。じいちゃんはいつでもテレビと見つめ合ってコロコロと表情を変えては、チャンネルも変え、最後には昼寝をしてしまう。私はそんなじいちゃんが大嫌いだった。今、ばあちゃんが苦しんでいるかもしれないのに、平然としているじいちゃんが、嫌いだった。あの時、私は気付かなかったから。

これは、後からばあちゃんが嬉しそうに、幸せそうに話していたこと。じいちゃんは、今まで一度もしたことがない家事を全て、娘にも、孫にも任せず自分でしていたこと。毎日毎日、ばあちゃんが心配で電話をしていたこと。ばあちゃんがいつ戻ってきても良いように廊下に手すりを付けていたこと。今思えば、洗濯物はたまってなかったし、ほこりもなかった。そして、冷蔵庫には私の大好きなシュークリームがあった。私はバレないようにこっそり食べていたけれど。その話を聞いた時、私は色々な感情が混ざり合って泣いてしまった。だけど、今となってはこう思う。あの人は、じいちゃんは、本当に可愛い人だなって。私がじいちゃんに怒った時、何も言い返さずにただテレビを見ていたじいちゃん。恥ずかしかったんでしょ。毎日毎日電話してるって言うのが。

どうしてばあちゃんはじいちゃんを選んだんだろう。なんて思っていたけれど、今なら分かる。だってあんなにツンデレで可愛いくて、自分を愛してくれる人なんかこの世に一人しかいないもんね。じいちゃん。ばあちゃんとは好みが合いそうだ。

もうひとつ可愛い話がある。これは最近のこと。じいちゃんは機械が苦手。そんな所も可愛いけれど。LINEで字も打てない。だからボイスメッセージを送ってくるの。ついこの間の言葉は、「なっちゃん、元気ですか。最近会ってないですね。じいちゃん、会いたいです。剣道も頑張ってる。」

どうして直接でなければこんなに素直なのだろう。可愛いけれど。

私の「少年の主張」はじいちゃんへの愛文になってしまった。本当に何を伝えたいかなんて、「じいちゃんへの愛」としか言いようがないが。私には、私を愛してくれる家族が居ます。そして、私が一番の作文を書けてしまうくらい愛している家族がいる。どれだけこれが素晴らしいことか。ということに気付けない人はどれだけいるのだろう。その人達は家族を愛しすぎて周りを見れていないのか。はたまた、家族を愛することができないのか。

私には分からない。けど一つだけ確かなことは、こんなにも恵まれている私は本当に本当に幸せものです。だから、私も色々な人の幸せをつかっていくような、笑顔にすることができるようになりたいです。まずは身近な人から。私みたいに幸せで、それに気付ける人が一人でも増えますように。